

# 半期報告書

(第69期中)

自 2024年1月1日

至 2024年6月30日

千代田インテグシ株式会社

東京都千代田区二番町1番地1

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 ..... 1
- 2 事業の内容 ..... 1

### 第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク ..... 2
- 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ..... 2
- 3 経営上の重要な契約等 ..... 3

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 ..... 4
- (2) 新株予約権等の状況 ..... 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 ..... 4
- (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 ..... 4
- (5) 大株主の状況 ..... 5
- (6) 議決権の状況 ..... 6

#### 2 役員の状況 ..... 6

### 第4 経理の状況 ..... 7

#### 1 中間連結財務諸表

- (1) 中間連結貸借対照表 ..... 8
- (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 ..... 10
  - 中間連結損益計算書 ..... 10
  - 中間連結包括利益計算書 ..... 11
- (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 ..... 12

#### 2 その他 ..... 18

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 ..... 19

[期中レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】 半期報告書  
【根拠条文】 金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号  
【提出先】 関東財務局長  
【提出日】 2024年8月8日  
【中間会計期間】 第69期中（自 2024年1月1日 至 2024年6月30日）  
【会社名】 千代田インテグレ株式会社  
【英訳名】 CHIYODA INTEGRÉ CO., LTD.  
【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 小池 光明  
【本店の所在の場所】 東京都千代田区二番町1番地1  
【電話番号】 03（6386）5555（代表）  
【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 管理本部長兼経理部長 村田 功  
【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区二番町1番地1  
【電話番号】 03（6386）5556  
【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 管理本部長兼経理部長 村田 功  
【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期中	第69期中	第68期
会計期間	自2023年1月1日 至2023年6月30日	自2024年1月1日 至2024年6月30日	自2023年1月1日 至2023年12月31日
売上高 (百万円)	18,614	20,367	39,416
経常利益 (百万円)	1,739	2,146	3,770
親会社株主に帰属する中間（当期）純利益 (百万円)	1,158	1,520	2,556
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	2,909	4,471	4,368
純資産額 (百万円)	38,480	41,459	38,865
総資産額 (百万円)	49,355	52,063	48,410
1株当たり中間（当期）純利益 (円)	102.80	143.58	230.56
潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	78.0	79.6	80.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,762	2,423	4,723
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△2,386	△1,406	△1,631
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△2,343	△1,997	△3,646
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高 (百万円)	14,438	15,901	15,772

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間における世界経済は、中国経済の低迷やウクライナ・中東情勢の長期化などの地政学リスク、欧米等の金融引き締め政策の継続や物価上昇により先行きが不透明な状況が続きました。米国では、個人消費は緩やかな減速基調となったものの、良好な労働環境が下支えとなり、景気は底堅く推移しました。中国では、輸出は堅調に推移したものの、内需の低迷と長引く不動産不況の影響により景気の停滞感が強まりました。他のアジア地域では、輸出の増加や製造業の回復により、概ね堅調に推移しました。

また、我が国経済は、物価上昇により個人消費の持ち直しに足踏みが見られるものの、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加などを背景に、景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、為替相場が米国利下げ観測の後退などから一時1ドル160円を超える歴史的な円安水準となり、インフレ圧力の高まりや個人消費の低下が懸念されました。

このような経営環境の中で、中期経営計画で掲げた「事業領域の転換」を推進するため、グループ丸となり目標に向かって邁進してまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

#### (財政状態)

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,653百万円増加し、52,063百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加885百万円、受取手形及び売掛金の増加1,119百万円及び建設仮勘定の増加468百万円であります。負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,058百万円増加し、10,604百万円となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の増加925百万円であります。純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,594百万円増加し、41,459百万円となりました。その主な要因は、為替換算調整勘定の増加2,676百万円及び自己株式の増加641百万円であります。

#### (経営成績)

当中間連結会計期間の経営成績は、売上高は20,367百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は1,636百万円（前年同期比33.2%増）、経常利益は2,146百万円（前年同期比23.4%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,520百万円（前年同期比31.2%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

日本は、AE機器向けが好調で、EC機器向けも底堅く推移し、売上高は5,037百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は347百万円（前年同期比192.1%増）となりました。

東南アジアは、OA・AV機器向けが当初予想を上回り、売上高は7,377百万円（前年同期比17.7%増）、営業利益は779百万円（前年同期比78.9%増）となりました。

中国は、ゲーム機器向けが大きく落ち込んだものの、AE機器向けが堅調に推移し、売上高は5,402百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益は502百万円（前年同期比32.2%減）となりました。

その他は、AE機器向けが引き続き好調を維持し、売上高は2,549百万円（前年同期比19.7%増）、営業利益は0百万円（前年同期は48百万円の営業損失）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動により2,423百万円増加、投資活動により1,406百万円減少、財務活動により1,997百万円減少しました。

この結果、資金の残高は前連結会計年度末に比べ128百万円増加し、当中間連結会計期間末には15,901百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、営業活動の結果得られた資金は2,423百万円となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益が2,133百万円、減価償却費が813百万円及び法人税等の支払額が628百万円であったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、投資活動の結果支出した資金は1,406百万円となりました。これは主に、定期預金の預入による支出が1,750百万円、定期預金の払戻による収入が1,212百万円及び有形固定資産の取得による支出が832百万円であったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、財務活動の結果支出した資金は1,997百万円となりました。これは主に、自己株式の取得による支出が641百万円及び配当金の支払額が1,234百万円であったこと等によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当中間連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において当社グループが優先的に対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、32百万円であります。

なお、当中間連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,600,000
計	32,600,000

###### ②【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2024年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2024年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,628,929	11,628,929	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	11,628,929	11,628,929	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2024年1月1日 ～ 2024年6月30日	—	11,628,929	—	2,331	—	2,450

## (5) 【大株主の状況】

2024年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
いちごトラスト・ピーティーイー・リミテッド(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	1 NORTH BRIDGE ROAD, 06-08 HIGH STREET CENTRE, SINGAPORE 179094 (東京都中央区日本橋3-11-1)	2,937	28.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR	961	9.22
日本生命保険相互会社(常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内(東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR)	402	3.86
日本毛織株式会社	兵庫県神戸市中央区明石町47	385	3.69
東京中小企業投資育成株式会社	東京都渋谷区渋谷3-29-22	378	3.62
第一生命保険株式会社(常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	東京都千代田区有楽町1-13-1(東京都中央区晴海1-8-12)	304	2.91
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT 0M02 505002 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	100 KING STREET WEST, SUITE 3500, PO BOX 23 TORONT, ONTARIO M5X 1A9 CANADA (東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟)	292	2.81
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND(PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2-7-1 決済事業部)	264	2.53
フォスター電機株式会社	東京都昭島市つつじが丘1-1-109	249	2.40
平和株式会社	兵庫県神戸市灘区新在家北町1-1-30	240	2.30
計	—	6,415	61.51

(注) フィデリティ投信株式会社から2024年3月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書により、2024年2月29日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当中間会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には株主名簿上の保有株式を記載しております。  
なお、大量保有報告書の内容は下記のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
エフエムアール エルエルシー(FMR LLC)	米国 02210 マサチューセッツ州 ボストン、サマー・ストリート245 (245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA)	637,500	5.48



(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2024年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 1,199,400	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 10,409,000	104,090	—
単元未満株式	普通株式 20,529	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,628,929	—	—
総株主の議決権	—	104,090	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。  
また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

② 【自己株式等】

2024年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
千代田インテグレ株式会社	東京都千代田区二番 町1番地1	1,199,400	—	1,199,400	10.31
計	—	1,199,400	—	1,199,400	10.31

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

#### 第4【経理の状況】

##### 1. 中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、連結財務諸表規則第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

##### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2024年1月1日から2024年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、アスカ監査法人による期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,174	18,059
受取手形及び売掛金	※1 10,265	※1 11,384
商品及び製品	1,768	1,768
仕掛品	458	564
原材料及び貯蔵品	2,323	2,521
その他	488	498
貸倒引当金	△28	△31
流動資産合計	32,450	34,766
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,202	13,978
減価償却累計額	△8,443	△9,052
建物及び構築物（純額）	4,758	4,925
機械装置及び運搬具	10,800	11,704
減価償却累計額	△7,579	△8,327
機械装置及び運搬具（純額）	3,220	3,376
工具、器具及び備品	2,296	2,537
減価償却累計額	△1,954	△2,154
工具、器具及び備品（純額）	341	383
土地	2,575	2,603
使用権資産	768	952
減価償却累計額	△511	△655
使用権資産（純額）	256	296
建設仮勘定	426	894
有形固定資産合計	11,579	12,481
無形固定資産		
ソフトウェア	141	118
ソフトウェア仮勘定	126	166
その他	0	0
無形固定資産合計	267	285
投資その他の資産		
投資有価証券	2,805	3,140
繰延税金資産	342	392
その他	998	1,031
貸倒引当金	△33	△33
投資その他の資産合計	4,113	4,530
固定資産合計	15,960	17,297
資産合計	48,410	52,063

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※1 4,655	※1 5,581
短期借入金	1,020	1,020
リース債務	162	151
未払法人税等	383	362
賞与引当金	431	517
その他	1,553	1,505
流動負債合計	8,206	9,138
固定負債		
リース債務	108	144
繰延税金負債	731	781
退職給付に係る負債	432	490
その他	65	49
固定負債合計	1,339	1,465
負債合計	9,545	10,604
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,331	2,331
資本剰余金	2,450	2,450
利益剰余金	30,804	31,088
自己株式	△2,419	△3,060
株主資本合計	33,166	32,809
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	894	1,182
為替換算調整勘定	4,724	7,400
退職給付に係る調整累計額	79	67
その他の包括利益累計額合計	5,698	8,649
純資産合計	38,865	41,459
負債純資産合計	48,410	52,063

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

【中間連結会計期間】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	18,614	20,367
売上原価	13,973	15,052
売上総利益	4,640	5,314
販売費及び一般管理費	※ 3,412	※ 3,678
営業利益	1,228	1,636
営業外収益		
受取利息	101	150
受取配当金	42	52
為替差益	262	243
その他	134	98
営業外収益合計	540	543
営業外費用		
支払利息	10	10
減価償却費	—	5
その他	18	18
営業外費用合計	29	33
経常利益	1,739	2,146
特別利益		
固定資産売却益	8	1
特別利益合計	8	1
特別損失		
固定資産除売却損	12	15
特別損失合計	12	15
税金等調整前中間純利益	1,735	2,133
法人税等	576	613
中間純利益	1,158	1,520
親会社株主に帰属する中間純利益	1,158	1,520

## 【中間連結包括利益計算書】

【中間連結会計期間】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益	1,158	1,520
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	112	287
為替換算調整勘定	1,637	2,676
退職給付に係る調整額	0	△12
その他の包括利益合計	1,751	2,951
中間包括利益	2,909	4,471
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	2,909	4,471
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

## (3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,735	2,133
減価償却費	755	813
賞与引当金の増減額 (△は減少)	55	74
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	40	11
受取利息及び受取配当金	△143	△202
支払利息	10	10
為替差損益 (△は益)	17	102
固定資産除売却損益 (△は益)	4	13
売上債権の増減額 (△は増加)	145	△254
棚卸資産の増減額 (△は増加)	317	83
仕入債務の増減額 (△は減少)	531	405
その他	△148	△319
小計	3,321	2,872
利息及び配当金の受取額	127	193
利息の支払額	△13	△17
法人税等の支払額	△675	△628
法人税等の還付額	1	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,762	2,423

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,824	△1,750
定期預金の払戻による収入	1,250	1,212
有形固定資産の取得による支出	△640	△832
有形固定資産の売却による収入	13	5
無形固定資産の取得による支出	△75	△40
投資有価証券の取得による支出	△99	—
その他	△11	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,386	△1,406
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△869	△641
リース債務の返済による支出	△106	△121
配当金の支払額	△1,367	△1,234
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,343	△1,997
現金及び現金同等物に係る換算差額	659	1,108
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,308	128
現金及び現金同等物の期首残高	15,746	15,772
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 14,438	※ 15,901



【注記事項】

(中間連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当社及び国内連結子会社は、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を用いた計算をしております。

(中間連結貸借対照表関係)

※ 1. 中間連結会計期間末日満期手形

中間連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日等をもって決済処理をしております。なお、当中間連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の中間連結会計期間末日満期手形が中間連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
受取手形	2百万円	2百万円
電子記録債権	8	9
支払手形	16	15

2. 当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当中間連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
当座貸越極度額	2,300百万円	2,300百万円
借入実行残高	1,020	1,020
差引額	1,280	1,280

(中間連結損益計算書関係)

※販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
給与及び手当	1,293百万円	1,412百万円
退職給付費用	34	22
賞与引当金繰入額	252	280
貸倒引当金繰入額	2	0
運送費	337	365
減価償却費	151	170

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
現金及び預金勘定	17,726百万円	18,059百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△3,287	△2,158
現金及び現金同等物	14,438	15,901

(株主資本等関係)

I 前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年3月30日 定時株主総会	普通株式	1,368	120.00	2022年12月31日	2023年3月31日	利益剰余金

II 当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年3月27日 定時株主総会	普通株式	1,235	116.00	2023年12月31日	2024年3月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本	東南アジア	中国	計				
売上高								
(1)外部顧客への売上高	4,671	6,266	5,545	16,483	2,130	18,614	—	18,614
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,106	65	585	2,756	19	2,776	△2,776	—
計	6,777	6,332	6,130	19,240	2,149	21,390	△2,776	18,614
セグメント利益 又はセグメント損失 (△)	118	435	741	1,296	△48	1,248	△19	1,228

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、北米等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失 (△) の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失 (△) は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本	東南アジア	中国	計				
売上高								
(1)外部顧客への売上高	5,037	7,377	5,402	17,817	2,549	20,367	—	20,367
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,079	66	563	2,708	28	2,737	△2,737	—
計	7,116	7,444	5,966	20,526	2,578	23,104	△2,737	20,367
セグメント利益	347	779	502	1,630	0	1,630	5	1,636

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、北米等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	日本	東南アジア	中国	計		
OA機器	1,423	3,152	1,656	6,231	104	6,336
AV機器	212	1,444	785	2,442	202	2,645
通信機器	155	472	260	887	—	887
自動車	1,674	854	906	3,435	1,678	5,113
デバイス	314	193	589	1,098	1	1,099
その他	891	148	1,347	2,387	143	2,531
顧客との契約から生じる収益	4,671	6,266	5,545	16,483	2,130	18,614
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,671	6,266	5,545	16,483	2,130	18,614

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、北米等の現地法人の事業活動を含んでおります。

当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	日本	東南アジア	中国	計		
OA機器	1,459	3,530	1,750	6,740	84	6,824
AV機器	190	1,950	977	3,118	173	3,291
通信機器	148	526	245	920	2	923
自動車	1,910	847	1,269	4,028	2,090	6,119
デバイス	404	305	366	1,076	4	1,080
その他	923	217	792	1,932	194	2,127
顧客との契約から生じる収益	5,037	7,377	5,402	17,817	2,549	20,367
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	5,037	7,377	5,402	17,817	2,549	20,367

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、北米等の現地法人の事業活動を含んでおります。

(1 株当たり情報)

前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
1株当たり中間純利益 102.80円 なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり中間純利益 143.58円 なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
親会社株主に帰属する中間純利益 (百万円)	1,158	1,520
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 (百万円)	1,158	1,520
普通株式の期中平均株式数 (千株)	11,272	10,587

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年8月8日

千代田インテグレ株式会社

取締役会 御中

アスカ監査法人  
東京事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小原 芳樹

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 若尾 典邦

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている千代田インテグレ株式会社の2024年1月1日から2024年12月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2024年1月1日から2024年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、千代田インテグレ株式会社及び連結子会社の2024年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は期中レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R L データは期中レビューの対象には含まれていません。